

他国を知って楽しい!

氏 名：関 悠夏

担当教科：道徳

時 間 数：5時間

学 校 名：丸亀市立城坤小学校

実践教科：道徳・総合的な学習の時間

対象学年：3年生

人 数：116人

【1】単元のテーマ・目標：世界は様々なことを通して繋がっている

- ・SDGsを知り、ラオスを知る活動を通して、世界に意識を向ける。
- ・互いの国の相違点を実感する活動を通して、知らなかったことを知る楽しさを味わう。
- ・日本とラオスの共通点を見つける活動を通して、日本とラオスの繋がりを実感する。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	他国について興味・関心を高めている。
(イ) 思考・判断・表現	他国の文化を知り、日本との相違点や共通点を見つけることができる。 共通点をもとに、なぜ同じであるのかを予想することができる。
(ウ) 技能	ラオスと日本の相違点や共通点を見つけることができる。
(エ) 知識・理解	持続可能な開発目標「SDGs」を知る。 ラオスの生活や言語、文化を知り理解することができる。

【3】単元設定の理由

<児童観>

本校は、香川県の丸亀市に位置しており、外国人労働者の多い地域である。しかし、学校での国際理解の授業時数が少ないこともあり他国の人々や文化についての知識は乏しい。第2学年の生活科で他国の文化の学習をした際には、すしや焼き肉を中華料理という児童が複数いた。自分たちの生活の中にあるものが、日本独自のものであるのか、他国から伝わったものなのかを区別することも難しい。

<教材観>

本単元は、児童が他国の人々や文化に興味や関心をもつことをねらいとしている。さらに、国際理解においても日常生活においても、真実を知るためには多くの情報を集め、1つの事柄を多面的に見ることが必要であることを知り、実践していく態度も養いたい。そのため、教師海外研修での実体験をもとに授業を構成し、児童の興味や関心に沿って授業を展開する。第1時から第5時にかけて、計画的にラオスの情報を提示することで児童の関心を継続させるようにする。加えて、多面的に見ることにより詳しく理解できることを実感させるようにする。机上での学習にとどまらず、様々なラオスの教材に触れる体験型授業を設定することで、国際理解・国際交流の楽しさや喜びを感じることができるようにする。

<指導観>

日本と違う風景や食べ物の写真を提示することで、児童の意識が必然的に日本とラオスの相違点に向くようにする。そこで、ラオスの不発弾を取り扱った授業で、真実を知るためには、多くの情報を集めることが重要であ

ることを学習し、次時に繋げる。そして、日本とラオスの共通点を複数学習することで、ラオスを身近な国と感じられるようにする。多くの情報を知り、ラオスを多面的に見ることでラオスに対する意識が変化することを実感させる。さらに、日々の学級経営の中や、授業の導入の際など日常的にラオスなどの他国の話をする中で、児童の他国に対する興味や関心を高めたい。

【4】展開計画（全5時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	～持続可能な開発目標（SDGs）を知ろう～ ・ラオスで撮影した写真を見て、考え、解説を聞く活動を通して日本とは違う世界があることを知る。 ・写真から持続可能な開発目標を考える活動を通して持続可能な開発目標「SDGs」を知る。	・ラオスについて知る。 位置、言語、人口、面積、人口密度 ・ラオスの何の写真かを考える。 建物（空港・店）、乗り物（ジャンボ）、ポスト、食べ物（カエル）、人（お坊さん） ・写真から持続可能な開発目標を考える。 トイレ、飲み物、雨水を使った生活→6 ドンコー村の子ども、教科書、教員研修→4 教科書、ゴミ箱を覗く子ども、古い自転車→1 年の分からない子ども、病院→3 ・持続可能な開発目標「SDGs」の紹介 （事前に練習しておいた児童と一緒に紹介）	・衣装（シン） ・パワーポイント 【資料1】 ・SDGsカード 1～17 ・ワークシート
2	～ラオスを知ろう～ ・日本とは違うラオスの一面を知ること、日本とラオスは全く違う国であることを感じる。 ・日本のあたりまえとラオスのあたりまえは違って当然であると考え、他国の文化を尊重する心を育てる。	・みんなの道徳3年『アメリカから来たサラさん』を学習する。 他国の人となかよくするためには、文化や言語が違うことをあたりまえのことだと考える事が大事である。日本の事を教えるだけでなく相手の国の事を教えてもらったりして、お互いが親切に接することが大切だと考える。 ・広げようの学習として、ラオスのことを知る。 托鉢、優先座席（お坊さんも含まれること） ドンコー村の生活、食事（ティプカオ）	・衣装（シン） ・写真【資料2】
3	～ラオスの不発弾～ ・ラオスの不発弾についての知識を深める。 ・真実を知るためには、多くの情報を集める必要があることに気づく。	・不発弾とは何か、また、現在もラオスには不発弾が残っていることを知る。 ・不発弾に関する情報を1つ知り、感想を書く。 （情報は4種類あるが、1人1種類のみ配付する） ・感想を班で発表し合う。 （班内は同じ情報を配付しているため、感想は似ている） ・全体で感想を発表し合う。 （4種類の情報があるため、全く違った感想が出される） ・情報収集し、感想を書く。 ・不発弾の学習においても、日常生活（トラブル発生時）においても、真実を知るためには多くの情報を集めることが重要であると気づく。	・衣装（シン） ・不発弾の情報 【資料3】 ・ワークシート

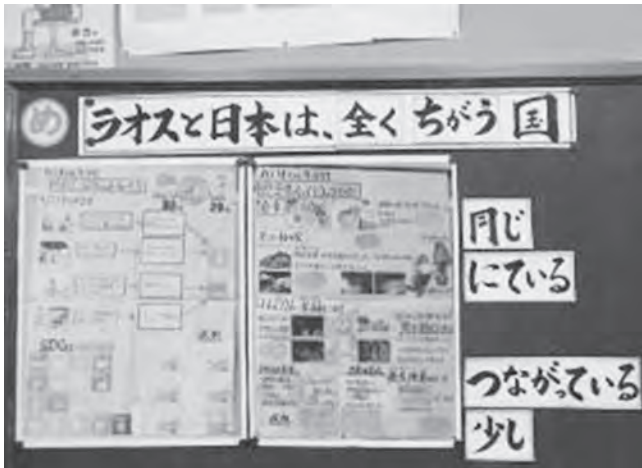
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
4 本時	～本当にラオスと日本は、全く違う国？～ ・ラオスと日本は、共通点も多くあることを知りラオスを身近な国と感じられるようにする。 ・多くの情報を知ることによってラオスに対する意識が変化することを実感させる。	・既習のラオスと日本の違いを振り返る。 ・ラオスと日本は（ ）（ ）国 （選択肢→全く・同じ・似ている・違う・繋がっている・少し） ・ラオスで撮影した漢字や鳥居、侍の写った写真①を見て、日本と関係のあるものを見つける。 ・ラオスで撮影した7枚の写真②～⑧を見て、班で日本との繋がりが共通点を見つける。 ・まとめを書く。 ラオスと日本は（ ）（ ）国 （選択肢→全く・同じ・似ている・違う・繋がっている・少し）	・写真①～⑧ 【資料4】 ・ワークシート ・京都市のバスの写真 ・ピエンチャンバスの動画 ・草の根技術協力事業「丸亀うちわ」の動画
5	～ラオスの文化を五感で感じよう～ ・ラオスの文化をより理解し身近なものと感じる。 ・互いの国の文化の違いを改めて実感し、どちらも素敵な文化だと認め合うことのできる心情を育てる。	・班でラオスのクイズラリーを進める。 （文字・お茶・新聞・不発弾などに関するクイズ） ・振り返りを書く。	・教材 ・ワークシート 【資料5】

【5】本時の展開

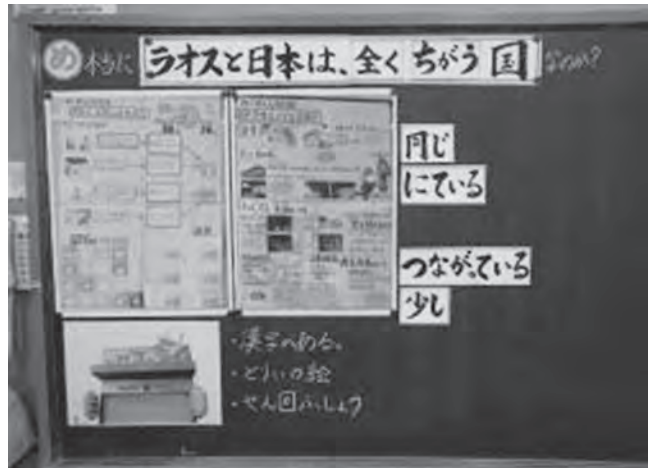
過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (13分)	既習事項を確認する。 ラオスで撮影した写真（漢字・鳥居・侍のイラストが写っている）を見て、気づいたことを発表する。	既習事項を想起しやすいように、まとめた模造紙を掲示する。 ラオスと日本が全く違う国であると意識するように、ラオスと日本の違いを確認する。 「ラオスと日本は□□国」 児童が自発的に日本との繋がりに気づき、不思議に思う感情が自然と芽生えるよう、「気づいたことある？」の発問のみにとどめる。 課題意識をもって学習に取り組めるように、児童のつくった文をめあてにする。 「本当にラオスと日本は全く違う国なのか？」	第1時、第2時のまとめの模造紙 写真① 選択肢カード 全く 同じ 少し 似ている 違う 繋がっている ワークシート
展開 (22分)	写真②～⑧を見て、気づいたことを班でまとめる。 班ごとに発表を行う。 ピエンチャンバスと丸亀うちわの動画を視聴する。	児童の活動をしたいという気持ちを活かすために、最小限の説明にとどめる。 円滑に班ごとの発表が行われるように、どの写真を発表するか机間指導を行いながら指示しておく。 写真のどの部分を指しているのか分かりやすいように板書用として矢印を用意しておく。 京都市のバスとピエンチャンバスの写真を提示し色などが似ていることに気づかせる。	写真②～⑧ （班活動用） （板書用） 矢印（板書用） 京都市のバスの写真

まとめ (10分)	各個人でまとめを行う。 まとめと理由を発表する。 国旗を動かす。	めあてとの繋がりをもたせるために基本となる文は変えずにまとめを書くことができるワークシートを用意する。 「ラオスと日本は□□国」 児童の気持ちを視覚化するために、日本の国旗の場所をラオスの国旗の方へ移動させる。	選択肢カード 全く 同じ 少し 似ている 違う 繋がっている
--------------	--	---	---

【授業実践の様子】



授業前の児童の意識



めあて



めあてと繋がったまとめ



板書

【6】 本時の振り返り

児童の印象に残る取り組みにしたかったため、第1時・第2時にはラオスと日本の相違点を多く伝えた。そうすることで、本時の授業がより効果的になると考えたためだ。やはり、児童は「ラオスと日本は全く違う国」だと感じていたため、写真①を見せると多くの児童が困惑していた。しかし、その課題意識をもとにして班活動を行ったため、活発に班活動を行うことができた。まとめでは、めあてと同じ文を提示したが、全ての児童がめあてとは違った言葉を選んでおり、ラオスに対する意識が変化したことが見て取れた。

ラオスを取り扱った授業の中では、児童の感情を揺さぶりたいと考えていた。そのため、計画的に情報を提示していった。本時が終わった後には、多くの児童が「もっとラオスに行ってみたくなった!」「日本と繋がっていて嬉しい!」などの肯定的な感想を述べていた。ピエンチャンバスの動画や草の根技術協力事業「丸亀うち

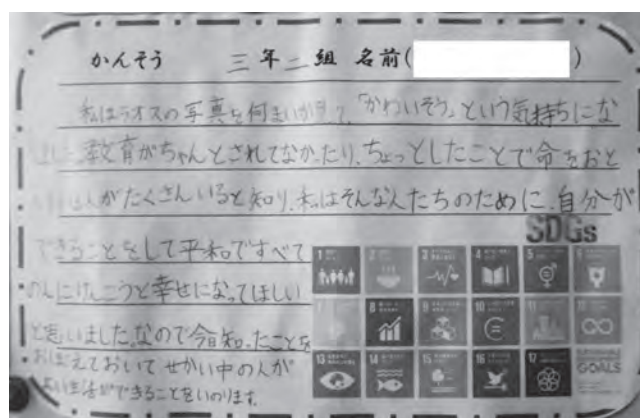
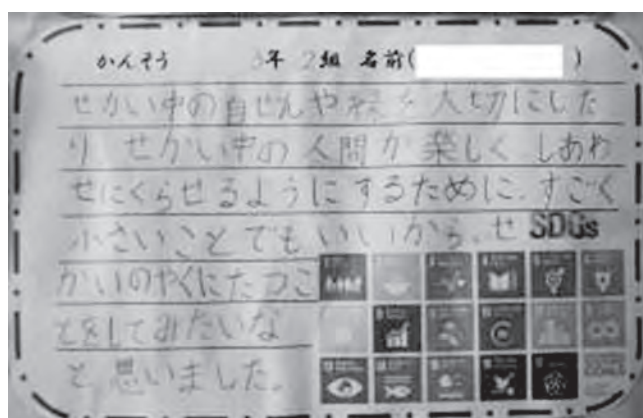
わ」の動画を視聴する際にも、「授業でならった優先座席や！」「丸亀うちわと作り方が同じや！」などの肯定的な発言が多く、今までに行ったラオスの授業や総合の授業が児童の中で繋がっていく様子がみられた。

また、児童の振り返りには「ラオスと日本の違いを勉強したり、同じところを見つけたりして楽しかった！ラオスの授業はワクワクする」というものがあり、今後も、国際理解をねらいとする学習に積極的に取り組むことができるように感じた。

【7】単元を通した児童生徒の反応／変化

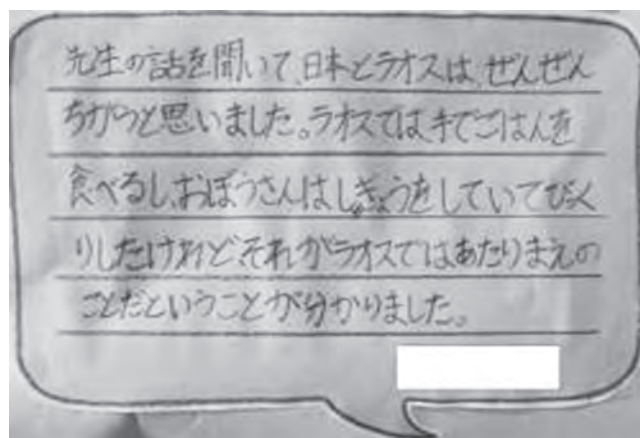
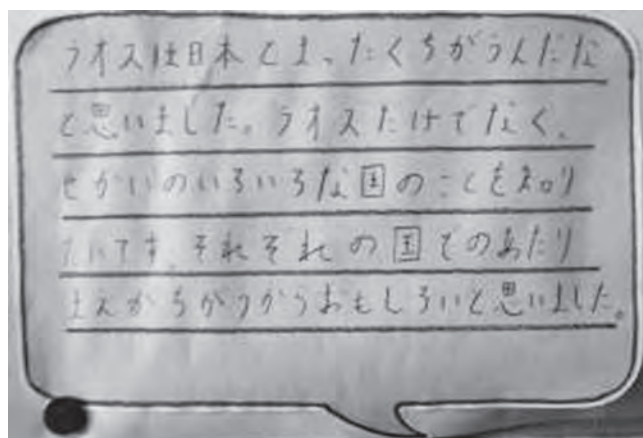
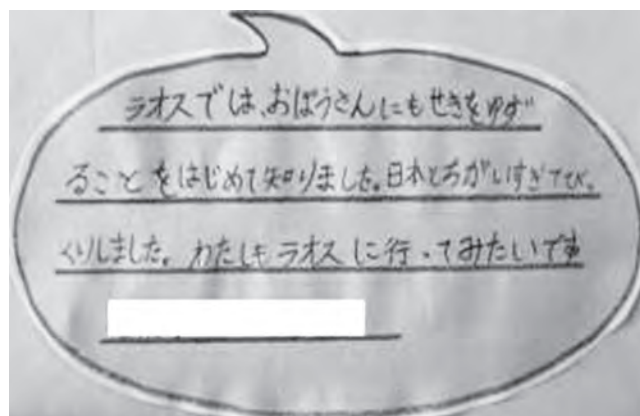
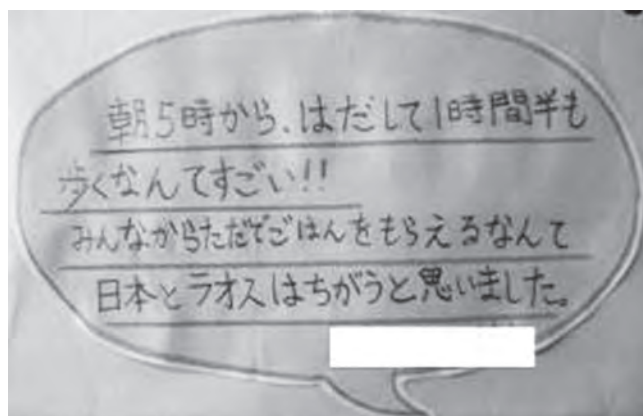
第1時 ～持続可能な開発目標（SDGs）を知ろう～

日本（自分たちの実生活）と違うところが多いラオスの写真を見て、驚く児童が多かった。ラオスの文化を少し知ったが「かわいそう」「お箸を使った方がよい」などの感想もあり、他国の文化を素晴らしい文化の1つと認めることは難しいようであった。また、持続可能な開発目標（SDGs）を学習し、自分たちにできることをし、世界中の人が幸せになってほしいという振り返りも多くみられた。



第2時 ～ラオスを知ろう～

托鉢や食生活の話聞いて驚き、日本と違う文化を知ることの楽しさを感じているようだった。ラオスと日本は全く違う文化であるという意識が強くなった。

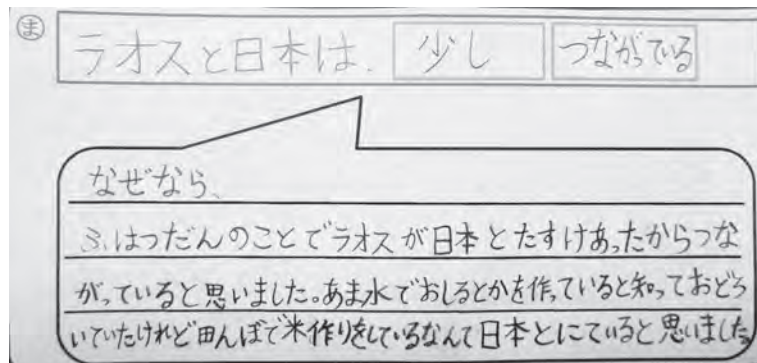
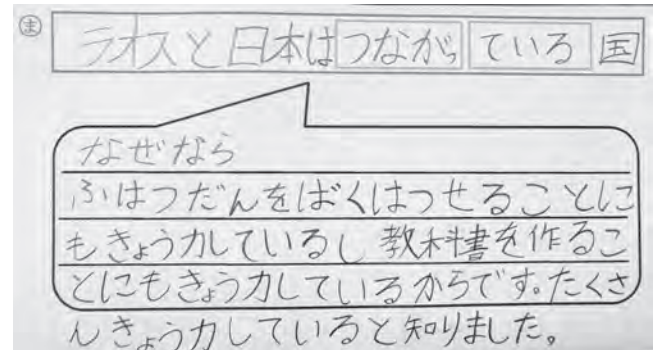
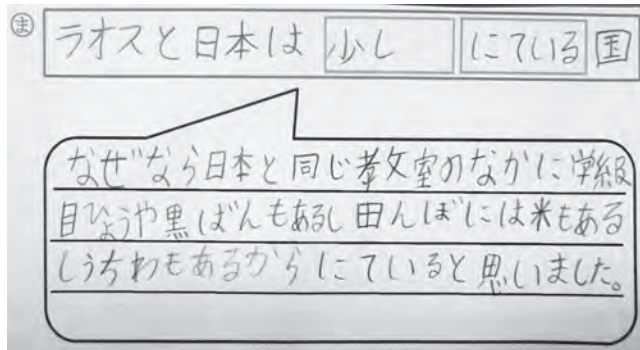


第3時 ～ラオスの不発弾～

授業の導入の際には、「ラオスには不発弾があって怖い」「不発弾で怪我をした人がかわいそう」という発言があった。しかし、授業が進み、不発弾に関する情報を収集するうちに、「今は安全になってよかった」「日本が協力していて、すごいと思った」「永田さんみたいに世界の役に立ちたい」などの発言に変化した。

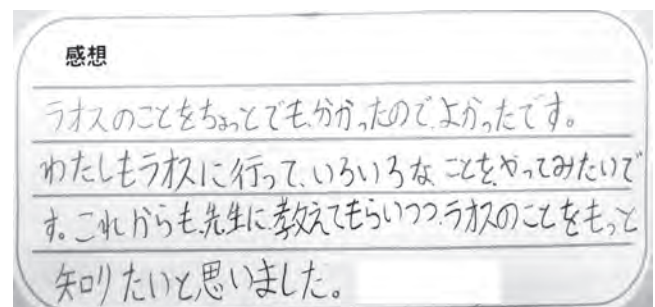
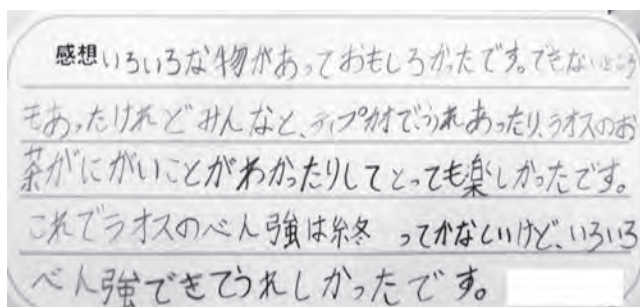
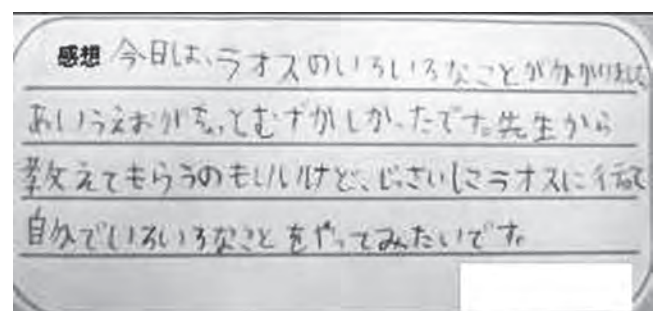
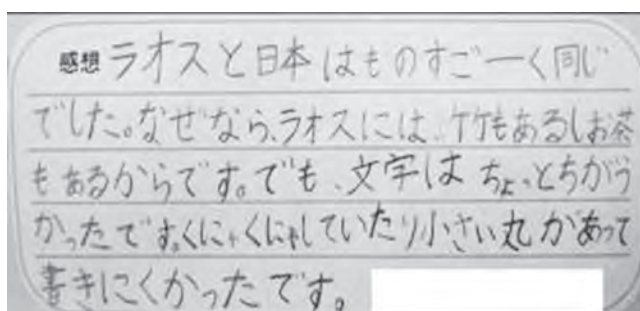
第4時 ～本当にラオスと日本は、全く違う国？～

ラオスで使用されている算数の教科書の写真やドンコー村の田んぼ（米作り）の写真を見て、日本と似ているところがあることに気づいていた。さらに、ピエンチャンバスの動画や草の根技術協力事業「丸亀うちわ」の動画を視聴して、ラオスと日本やラオスと丸亀の繋がりを実感していた。



第5時 ～ラオスの文化を五感で感じよう～

ラオスの文化（教師がラオスで収集した教具）を五感を使って感じていた。教師の話聞くだけでは感じ取れない部分まで、児童が感じ取っていた。



【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

- ・ラオスという言葉に敏感になった。取り組み期間中に、香川県にサーカスの団体が来ており、多くの児童が見に行っていた。そのショーに登場する象がラオスから来た象であり、ショーのなかで「ラオスから来た象さんです。サバイディー」というアナウンスがあったことを児童が嬉しそうに教えてくれた。
- ・サバイディーやコープチャイ、コープチャイライライなどの挨拶を学習しても、はじめは抵抗があったのか進んで言う児童は、ほとんどいなかった。しかし、今では、教師がプリントを配布するときや児童同士で会話をしているときに、コープチャイライライなどの言葉が飛び交っている。さらに、手を合わせる仕草も合わせて行う児童が多くなった。
- ・節水や節電、トイレのことでSDGsを口にする児童が増加した。
- ・SDGsを廊下に掲示しているが児童にとって詳しく分からないものがある。そのため、希望者を募って放課後にSDGsの勉強会を開き、補足説明を書いた掲示物を作成することにした。はじめは、難しい言葉の意味を教師に聞き、自分たちにできること・自分たちの生活と関わりのあるところは、教師のヒントをもとに書いていた。しかし、回数を重ねるごとに、自分たちで辞書を使って調べて生活に落とし込めるようになった。



放課後の様子



作成した掲示物



【途上国・異文化への意識の変容】

＜授業前＞

- ・途上国という言葉や意味を知らなかった。
- ・他国の文化の学習も第1学年、第2学年で行ってはいるが、他国の文化を素晴らしい文化の1つであると認める段階には及んでいなかった。
- ・本などで途上国の写真を見たりはするが自分の生活とは繋がっておらず、同じ地球上のことだと知ってはいるが理解できていない児童が多かった。

＜授業後＞

- ・ラオスの文化（他国の文化）を素晴らしい1つの文化として認めることができた。
- ・文化が異なるため、常識が異なることはあたり前であり、他国からすれば日本もまた異文化となることが分かった。
- ・他国の文化を知ることの楽しさを実感し、もっとラオスの文化や他の国の文化を知りたいという感情が芽生えた。
- ・学級の転校生（ペルー人）に対しての接し方が少し優しくなった。全体での音読の際に、読み方の分からない漢字を小さな声で教えてあげるようになった。

【8】自己評価

1. 苦労した点

- ・世界（他国）のことを考えた経験が少ない児童に対して、分かりやすい授業をするために、伝える情報を厳選し、言葉を変換し、かみ砕いて、少しずつ授業を行うように心がけた。
- ・児童の印象に残る取り組みにしたかったため、情報の伝え方や伝えるタイミングを工夫した。授業だけでなく、朝の会や休み時間に話すことも計画しておいた。

2. 改善点

- ・情報を厳選するあまり、紹介しきれっていない写真や話が多く残ってしまった。
- ・第3時の不発弾を取り扱った授業は、道徳として行ったため、まとめは「真実を見つけるためには多くの情報を集めなければならない」としたが、振り返りは、友だちから他の子の悪口を聞いたときなどを例に挙げ、児童の実生活に関係することで書くように指示した。しかし、不発弾の学習のまとめを実生活に変換することが非常に難しかったように感じた。道徳の価値にせまる教材というよりは、国際理解の教材としての価値の方が高いと感じた。

3. 成果が出た点

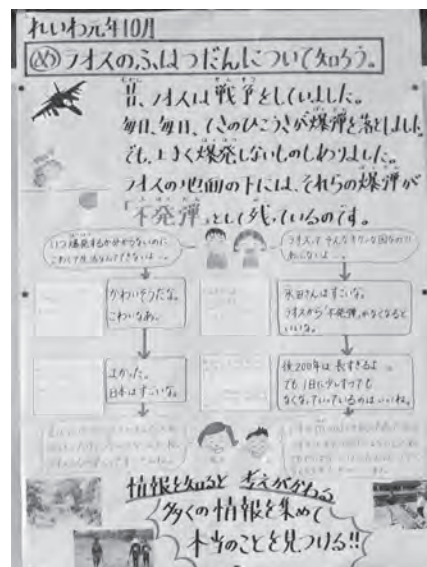
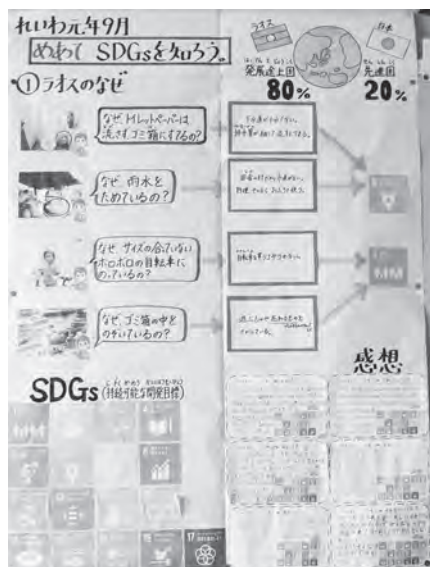
- ・本学級の児童にとって国際理解を重点的に行う取り組みは初めてであった。そのため、ラオスを取り扱った取り組みが楽しいものであり、肯定的な意識をもつことで、今後の国際理解教育に対する児童の意識がよくなると考えた。児童が楽しく授業に参加できるように、難しすぎる内容にならないように心がけた。その結果、「もっとラオスの授業をしてほしい！」「いろいろ知ることができて楽しかった！」などの感想を得ることができた。
- ・第1時の授業後に、ラオスと日本の国旗を作成し、教室内に設置した。糸で繋がっており、国旗の場所を自由に動かすことのできるものである。これは、児童の意識を具体化（視覚化）したものであることを説明し、第1時は、少しラオスのことを知っただけであったため遠いところにセットした。第5時が終わった際に「国旗どうする？」と聞くと「日本をラオスに近づける。でも、くっつけない！」という返答であった。理由を聞くと「日本人（児童）がラオスのことを知ったから」「ラオスのことを全部知ったわけではないから」「先生から聞くだけでなく、行ってみないと分からないから」と述べていた。第3時や第4時で学習したこと（真実を見つけるためには多くの情報を集めなければならないこと）を踏まえた発言であり、学習の積み重なりを実感した。
- ・今回の取り組みは、本学級の児童に対する授業が多かった。しかし、他の学級の児童にもラオスのことを知ってほしいと考えた。そこで、授業ごとに模造紙に内容をまとめた。すると、他の学級の3年生はもちろん、他学年の児童からも声をかけられることが多々あった。（次ページ参照）



〈第1時終了時〉



〈第5時終了時〉



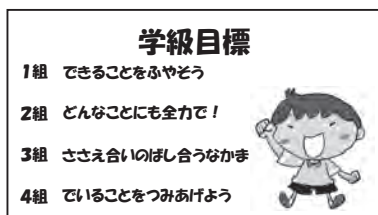
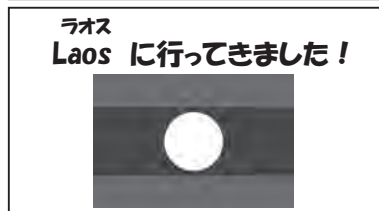
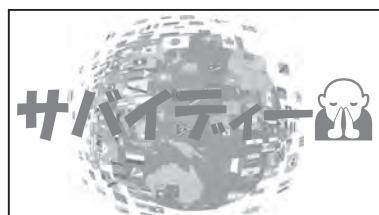
4. 備考

今回の取り組みは、本学級の児童にとって他国の文化を知る第一歩となった。自分の生活圏や住んでいる都道府県での思考にとどまっている児童にとって、ラオスは、全く知らない国であり全く考えたこともないところからのスタートであった。しかし、授業中の活動を増やすことで楽しく知識を増やすことができたように感じる。国際理解教育、開発教育の楽しさを少し伝えることができた。私自身も、児童に伝えることの楽しさを改めて感じることでできた取り組みであった。私自身も本研修で多くの事を学ぶことができた。貴重な経験をさせていただいたことを心より感謝している。

【参考資料】

<Webサイト>

- ・「ラオス ピエンチャン 日本のバスが走る 京都市交通局 市バス 座席や右側に追加のドア
－Japanese Kyoto Bus in Vientiane Laos－
(<https://www.youtube.com/watch?v=bcNKkuUeP4k>)
- ・「草の根技術協力事業『丸亀うちわ』」の動画 (Kagawa Uchiwa Promotion)
(<https://www.facebook.com/jicalaos/videos/kagawa-uchiwa-promotion/1978726772392209/>)



【資料2】第2時使用写真



【資料3】第3時使用「不発弾の情報」

ふはつだんで、けがをした人が何百人以上いる。
手や足がなくなってしまう。

前は、ふはつだんで、けがをした人もいた。
今は、日本がたくさん手伝いをして、けがをする人はほとんどいなくなった。

毎日少しずつ安全にばくはつさせて、くならせている。
あんぜん
だけど、数が多すぎて全部くならすのに、後200年かかる。

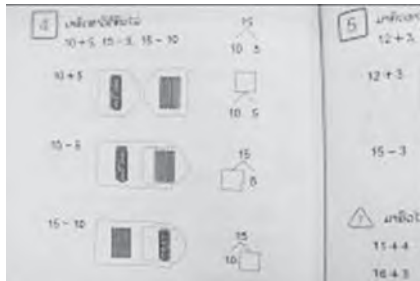
ひろしまけん ながた
広島県の永田さんがふはつだんを安全にばくはつさせて、くならせるシステムを作った。

【資料4】第4時（本時）使用写真

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



月 日 名前 ()

め

ラオスの文化を五感で感じよう！

④ あいうえお表?! どんな文字があるかな?	⑬ うちわにかく林 春の景色がせ	⑧ ラオスと 日本を さがせ!	⑭ SDGs は何年までにたっせ いた方がいいの?
⑥ 知っているお話あったかな?	① どんなあじ? どんなにおい?	② 日本語 → ひこうき ラオス語 →	⑪ News paper 何語で かかれてる?
⑨ ふいほうたんが 〇〇に大へんい	⑦ とった写真で 写真集をつくったよ どの写真がすき?	③ お金に何の絵が かかれてる?	⑩ 10月16日 カレンダーの中にたれが なんだろう?
⑮ みんなは 緑と黒 どっちがすき?	⑫ ・セパタクロード使うボール ・ティアパオ どんなにおい? 何からできてる?	⑬ 先生が ラオス から特 と出した 相手は?	⑤ 何の教科書?? 国語? 社会? 道徳?

感想
